

山びこ通信

11月号
2004.11.1

第9回 青春ライブ授業！



『英語から古典語へ』
(第6回目)の授業風景

「ドイツ留学の話」(タイトル未定)
講師 下村昭彦(滋賀医科大学4回生)

日時 11月26日(金)

午後7時～8時30分

場所 第3園舎(つき組の部屋)

対象 中学・高校生・一般 / 入場無料

山の学校で中・高生の数学を教えている先生です。『青春ライブ!』でも前回、「がんってなんだろう?」で話されたのを、おぼえてますか? 今回は、ついこの前(9月)に、ドイツに留学されたときの話が飛び出しますよ。お医者さんの卵と話せる、愉快的な90分!

第6回 山びこクラブ

「めざせ殿堂入り! こま回し・はごいたリレー大会!」



前回来てくれたお友だち。
また遊びに来てね!

日時 11月26日(金)

午後 4時～5時30分

場所 ようちえんのお庭(雨天はゆき組)

対象 小学生 / 無料(もちろん)

- 「お正月でなくても、はごいたしたい!」
「回せないと、コマは面白くない!」
- そんな小学生たち、あつまれ! 「はごいた」リレーと、コマのひっさつわざあみ出しにチャレンジしよう!
- もしお家にマイはごいた・マイこまがあったらもってきてね!

『山びこクラブ』『青春ライブ授業!』は、お電話またはFAX(別紙)にてお申し込みください。

第5回 ミニミニようちえん



前回きてくれたおともだち。
またあそびにきてね！

「みにみに運動会！」

日時：11月6日（土）午前10時～11時00分

場所：ようちえんのお庭
（最初は「ゆきぐみ」にお集まりください）

対象：未就園児（年齢は問いません）とそのご家族

* お母さんといっしょにかけっこをしたり、おどったり、
からだを元気いっぱいうごかそう！！

～～第6回は12月4日「クリスマスグッズをつくろう」です！～～

ラテン語の夕べ

日時 11月12日（Fri）20:00～21:30



場所 第3園舎（つき組の部屋）

対象 一般・高校生 / 入場無料

ラテン語は日常の中に息づいています。映画やCMで見かけたあの言葉、この言葉。ラテン語を語源とする英単語はたくさんあります。合唱をされている方は、歌詞そのものがラテン語ということもあるでしょう。できれば、歌詞を理解した上で歌いたいと思われるかもしれません。

今回「山の学校」では「ラテン語の夕べ」と題し、ラテン語の魅力にふれていただくひとときをご用意致しました。教科書も、ノートも要りません。「ラテン語はおもしろい！」と言ってお帰り頂けることを何より願っています。

この機会にどうぞお気軽にお越し下さい。

『憧れの連鎖』

文章 / 近藤明子

「おめでとうございます。」と山下太郎先生がおっしゃった。『ラテン語初歩』（田中利光/著・岩波書店）の巻末最後の文例を読み通したのだ。テキスト一冊上がり、ということだ。

「ありがとうございます。」——この紙上では嬉しい気持ち、先生、夫、家族、友達、皆さんのおかげです！ 的な感想がふさわしい、が、しかし、正直、達成感どころではないのだ。

昨春、お山の学校の案内を見て、珍しい「ラテン語」に飛びついた。

私はヨーロッパの中世・ルネッサンス期の音楽が好きだ。このあたりの歌は大半がラテン語かそこから派生した言語で書かれている。音楽と時代の人々の体温を感じたい、その方法のひとつが、彼らの使った言葉を知ることであるのは言うまでもない。既にある日本語訳では受け取ることのできない何かがある、それが欲しい。

文法がわかったら辞書を引き引き読めるだろう。文法さえ……。

初めのうち、主語がなくても行動の主体がわかる、つまり、*amo te* の二音節で、私はあなたを愛している、と言い切れる直感的な言葉は快かった。が、テキスト半ばから、活用の多さ、あまりに融通のきく語順、日本語に置き換えられない感覚に、硬い頭はパニックに陥った。そんな時……。

Dimidium facti qui coepit habet. （ホラティウス『書簡詩集』）

（事を始めた人は、事の半分をすでに成し遂げたのである。）

34課に登場する文例だ。何と！ それでは行くも帰るも同じ距離、ならば先方へ！

テキストの著者は絶妙に攻めてくる。各課末尾の文例が心をくすぐる。さらに、最終課の読み物は辞書で日本語に変換できたとしても、それが何を言わんとするのか考えることなしにはちんぷんかんぷんのままであるが、先生に導かれながら訥々と稚拙な訳をし、それを叩き台に内容を深めて頂くと、時折書き手の叡智や言葉の妙技にはまるように思えることがある。（私の稚拙さに忍耐強く時間を割いてくださった先生に感謝！ です）それでもお山を降りながら、やっぱりまだ何もわかっていないと自覚する。

今や、文法さえ……ではない。言葉を受け取ることのままならない。受け取れるようになりたい、と希う。希いが背中を押してくれる。

ペトラルカというイタリア中世末期の詩人がいる。ルネッサンス運動の主唱者の一人だ。その書簡集（近藤恒一/訳・岩波文庫、原文はラテン語）を聞くと私の憧れる時代がリアルタイムで述べられている。そしてペトラルカ自身は焦がれる想いで古代ローマ文化への憧れを全篇に熱く語っている。彼はフォロ・ロマーノに立ちすでに廃墟となった遺跡の前で感激している。それを読みながら、私はまた、私の動揺を感じる。

「憧れの連鎖、ですね。」と先生が言葉にしてくださった。連鎖の片端に手をつないでいるという感覚は、自分の居場所が保証されるような安らかな思いと、憧れをまた誰かに伝え渡していけたら、というわくわくする思いとを与えてくれる。憧れで心を満たすのは心地よく、ラテン語を学び続けることは、憧れへの扉を開く鍵のひとつなのだ。その鍵ひとつを得ようと四苦八苦している私には、正直、達成感どころではないのだ！

（2004年10月20日）

第7回目(2004年9月24日)

講師:Fujita

題名:『The English and I』

——講師からの感想——

今回は、わたしが英語を勉強した過程をお話しました。

自分で考えても少し珍しい方法だと思います。そして、この話を聞いて他の方が同じようにしようとしても、ほとんどの場合、同じようにはできないと思います。

そこで、自分に合った勉強スタイルを見つけることが大切になります。わたしのやり方では多くの人が面倒くさいと感じます。誰だって面倒は嫌いです。

自分に合ったスタイルとは、面倒を面倒と感じさせないようなやり方なのです。

学校の先生は忙しくて、生徒一人一人に合った勉強のスタイルを探してあげるようなことはできません。勉強の内容を提示することはできても、個人の勉強方法を模索することはできません。これを見つけるには、自分自身で探し歩くしかありません。

最初は、自分の興味があることを何でも取っ掛かりにして始めればよいでしょう。

幸い英語は、どんなものにでも非常になじみやすいものです。なぜなら、わたしたちが普段日本語を使用している全ての場面を英語に置き換えることができるからです。

ゲームが好きな人は、インターネットを介してたくさんの英語のゲームが手に入ります。マンガが好きな人は、ちょっと大きな本屋に足を運べば、日本のマンガの英語訳がたくさん手に入ります。

音楽が好きな人は、歌詞が英語の曲は無限にあります。日本語の歌を自分で英語訳してみるのもおもしろいでしょう。

少し考えれば英語の勉強と思わずに英語が上達するような手段はたくさんあります。それに気付く前の段階で投げ出してしまうと、知らず知らずに大損をしてしまいます。

そうなる前に、みなさんが知らず知らずに英語の勉強ができることを願います。

(Fujita / 山の学校・英語クラス担当)

中学生の頃、初めて出会ったコンピュータ(マック)と楽しく遊ぶ(=ハイパーカードのプログラム)ため? 英語の勉強に自然と夢中になっていった...という流れに、たいへん共感を覚えました。

「自分の英語力、タイピングスピードを向上させるには、どういうプログラムを考えればよいか?」というところから、ソフトをどんどん改良し、その実験台としての自分がそのプログラムに挑戦し(=英語の勉強になっている)、もっと自分を鍛えるにはどうやればよいのか? また考える。

大好きなコンピュータを使ってソフトの改良にいそむることと、自分の英語力を鍛えることが、良い循環を生み、結果的にFuji先生の英語の力をどんどん伸ばしてくれたのです。

高校時代に、市販されている単語集、例文集をすべて自分用にプログラムし、その中身を完全暗記&日本語例文→英文の瞬間タイピングができるまで、技を極めておられた点、すごいなと思いました。

教科書の英文も、タイピングスピードを向上させる目的に添った「資料」にすぎず、その副次的効果として英語の読解力、表現力が知らず知らずのうちに身に付いた、というエピソードは示唆的に思われました。

語学の場合、「追うと逃げる、逃げるから追う」という悪循環に陥りやすいのですが、Fuji先生のように最初から「追わぬが勝ち!」だとしみじみ思います。

ただ、その方法として、市販されているPCソフトに手を出したりするのではなく、「自分で」「自分の」プログラムを作る、という点に勉強のオリジナリティがあるわけで、誰もがそのまままねできる話ではありません。

しかし、勉強を「自分流に」組み立てていく、という発想や具体的な手法については、誰もがヒントを得ることのできるお話だったように思います。

プレゼンテーションの点でも、パワーブックとパワーポイントを鮮やかに使いこなしておられ、私自身たいへん楽しく参加させて頂きましたことを、あらためて感謝申し上げます。

文責 / 山下太郎

次回 11月26日 pm7:30~9:00

「ドイツ留学の話」(タイトル未定)

講師: 下村昭彦(山の学校・数学担当)

『黙想と、俳句と、お話と』

文章 / 山下一郎

この4月から、ことばの教室の1、2年生を担当しておりますが、1学期の開始前に、「ぜひ、“俳句”を指導内容の一部に取り入れていただきたい」との、園長先生からの要望がありました。

これは、かつて私の園長時代、“朝のお集まり”の際に“黙想と俳句”を通して、幼児たちと長年ふれあってきました経験を、山の学校でも活かしてほしいとの主旨によるものと思われまふ。したがって、“俳句を”、ということは、その前に行く、みんなで静かに眼をつむる“黙想”と一体をなしていますので、先ず、

—黙想について—

触れておきますと、意外なことに生徒たち、幼稚園の頃には毎朝のように行ってきた、“落ち着いて目を瞑る”、“みんなで俳句をそらんじる”という、じゅうぶん馴染んでいたはずの一連の行動が、なぜか、初めのうちはスムーズに運ばないのです。目を瞑ること一つ、満足にできません。

数十人の月組園児が一堂に会した折には、きちんと出来ていたものが、わずか数人の、しかも小学生にできないのです。この集中力のなさは、いったい何なのだろう？これでは、せつかくの園長先生の期待にも添えないかと、しばらく戸惑っておりました。

しかし、よくよく考えて見ますと、園時代の黙想なり俳句は、朝の新鮮な気分のなかで、程よい緊張感を伴いながら行ってきました。ところが生徒たちの場合は、学校生活のあとの疲れを背負いながら、山道を古巣の幼稚園へようやく辿りついて、いわば、家へ帰ったとたん、カバンを放り出して親に甘えたい気分、といったところなのでしょう。そこへ直ちに、静寂を求めることが、そもそも無理であることに気づきました。

そこで、生徒たちの緊張感と疲れをほぐすために、席に着くと同時に先ず、“おしゃべりタイム”を設けることにしました。学校での出来事や友だちのこと、楽しかったこと、困ったこと、何でもいいから順番に話して貰います。“公認のおしゃべり”ですから、お互いに話はずみずみ。みんなが一通り話し終えて、気持ちが発散したところで、

「話すときは、思い切り楽しく話そうね。目を瞑るときは思い切り静かに目を瞑ろう。これが、幼稚園のときによく言っていた“けじめ”だね。目を開けたくなくなったり、おしゃべりしたくなったら、それは自分に負けることだよ。じゃあ、背筋をしっかりと伸ばして、いい姿勢で、目を瞑りましょう。」

と、園時代と同じ口調で促しますと、生徒たちもまた園時代の気分に戻って、むしろ当時よりも長い間黙想することができるようになりました。

同じ効果を得ようとしても、常に同じ方法を用いるだけでは良い結果が得られないことを、改めて学んだ気がいたしました。

—俳句について—

園時代、さいしょの一と月、二た月は、一つの俳句を全員が完全に覚えるのに一ヶ月はかかりました。そこへいきますと、さすがは小学生。

4月の第1回目、幼稚園でしていたと同じように、新しい句を5回繰り返しましたところ、一人の生徒が「はい、覚えた」と即座に手をあげたのです。これには驚きました。当てますと、

てのひらに らつかと落花止まらぬ つきよ月夜かな すいは水巴

と、ちゃんと言えるのです。「これは、以前とは少々勝手がちがうぞ」と、試しに1週間たった2回目にもまた、

はなち花散りて しずまた静かなり おんじょうじ園城寺 おにつら鬼貫

の新しい句を与えましたところ、同じく「はい、覚えた」です。そればかりか、他の生徒たちもかれに刺激を受けてか、つぎつぎに手を上げるといった具合です。

それから、毎回のように新しい句を与え、常にそれまでの句のおさらいをするのですが、“てのひら”とか“花”とか、頭をチラといただけで、目を輝かせてあとをつづけるのです。その様子には、「園児のときとは違うんだよ」といった、小学生としてのプライドさえ感じられ、生徒たちの卒園後の成長と、学習に対する気構えの備わってきている様子が、頼もしくうかがわれたことでした。

さらに、生徒たちと俳句をしていて一段の成長を感じましたことは、幼稚園では、一方的に句の内容を園児たちに解説していたのですが、生徒たちの場合、句によっては、語句の解釈や、ちょっとしたヒントを与えただけで、あとは句の意味や情景を、自分たちで掴み取ろうとする意欲が見られることです。例えば、

じっとして 馬にかがるる 蛙かな 一茶

この句のときも、

「かがるる」というのは、「嗅がれる」ということで、匂いをだれかに嗅がれることだよ。この俳句では、だれが、嗅がれるの？」

「そら、蛙や」

「じゃあ、だれに、嗅がれるんだろう？」

「馬や！」

「だれ“が”？>だれ“に”？>の“が”と“に”、の意味の使い分けが、ちゃんと出来るのです。

「わかった。馬にかがるるやろ。そやさかい、じっとしてるのは、蛙いうことやな。」

「ちっちゃな蛙が地べたでじっとしてるし、これ、何やる思うて、お馬さんが蛙のどこへ首持っていつて匂い嗅いだ、いう俳句やろ？」

またあるときは、

やがて死ぬ けしきも見えず 蟬の声 芭蕉

「けしきも」というのは、“ようすも”、ということだよ。だから、死ぬという様子も見えない、つまり、もうすぐしたら死ぬということも知らんと、ということね。じゃあ、死ぬことに気が付いていないのは、だれ？」

「蟬や。蟬は地上で1週間しか生きられへんのやで」

「もうすぐ死なんならんのに、蟬はそんなことわからへんさかい、元気いっぱいいないてるのやなあ」

だれかがそう言ったあと、窓の外を聳るミンミン蟬の声に、なんとなくしんみりと聞き入っている生徒たちでした。

(本園で、創立当初より、保育の一環として黙想と俳句を取り入れてきました動機と狙いにつきましては、北白川幼稚園ホームページの、園主だより「幼児と俳句」の項に詳述しております。)

“黙想と俳句”をすませたあとは、通常、お楽しみの、

—お話と紙芝居—

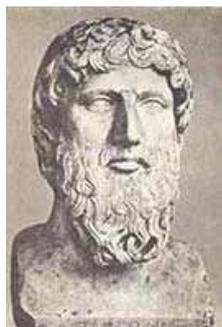
の時間です。

“話”の方は、“絵本の読み聞かせ”であったり、何も持たない“素ばなしの童話”であったり、生徒たちが1ページずつ分担しての“絵本の読み合わせ”であったりと、時によって趣向は異なります。内容につきましては、できる限り、幼少期に受けた感動を、いついつまでも心の中に持ち続けて、それが、人生の折り折りの生きる支えとなったり、行動の道しるべとなってくれるような、そのようなテーマのものを選ぶよう心がけております。“紙芝居”の場合も同様です。

これからも、“黙想”を通して、集中する力、静寂を楽しむところ。“俳句の暗誦”や“話と紙芝居”を通して、聞く力、考える力、感じる力、想像する力、そして自然に眼を向け、いのちに眼を向けるところをも育ててまいりたいと思っております。

(文責 / 山下一郎)

日本語の読み書き



『ことば』クラスの中学生・高校生向けである、『日本語の読み書き』は随時生徒を募集しています。体験無料ですので、ご興味のある中学生、高校生の方は、ぜひ一度ご参加ください。

中学生（*曜日） pm 6 : 40 ~ 8 : 00
 高校生 火曜日 pm 6 : 40 ~ 8 : 00

* 中学生のクラスの曜日・時間帯はご相談に応じます。

中学生・高校生向けの『ことば』のクラス、それが『日本語の読み書き』です。(1) 文章を正確に読む練習(読解) (2) 自分の意見を文章によって表現する練習(小論文) (3) 意見交換する練習(対話)を中心の課題とします。実際には一人一人のお子さんと対話しながら、ふさわしいテーマを決め、読む本、書く内容を選んでいきます。

自分の考えを文章によって表現する練習は、生徒が表現した一つひとつの文章を大事に見守ろうとする先生との、きめ細かいやりとりによって実現されるものです。このクラスではマン・ツー・マンに近い形で一人一人の言葉を大切に、表現の喜びを共有したいと考えています。

「山の学校」冬学期生・募集中!

冬学期 12月3日~3月24日 (全14週・各クラス5名まで)

平成16年度の時間割(秋学期)

	4:10-5:10	5:30-6:30	6:40-8:00	8:10-9:30
火	しぜん低学年 しぜん高学年 ことば高学年A かず中級	ことば高学年B	中1英語の基本 日本語の読み書き (高1~3)	英語の読み書き (高1~3) 数の世界(中・高)
水	ことば低学年 ことば中学年			ラテン語
木	かず初級 かず上級		中2英語の基本 数と自然(高1~3)	中2数の基本
金	やまびクラブ (16:00~17:30 月1回)		青春ライブ授業! (19:00~20:30 月1回)	ラテン語

小学生の部

『ことば』低学年(1・2年) 山下一郎
 中学年(3・4年) 宇梶卓
 高学年AB(5・6年) 某
 『しぜん』低学年(1・2年) 山下太郎
 高学年(3~6年) 山下育子
 『かず』初級(1・2年目安) 宇梶卓 / 山下太郎(隔週制)
 中級(3・4年目安) 福西亮馬
 上級(5・6年目安) 宇梶卓 / 福西亮馬(隔週制)

講師が「—」のクラスは、希望者を5名まで受け付けます。希望者がいる時点から、上記の講師たちによる新しい授業が展開されます。

中学生・高校生(一般)の部

『日本語の読み書き』 中(1~3) —
 『英語の基本』 中1 Fuji
 中2 山下太郎
 中3 —
 『数の基本』 中1 —
 中2 下村昭彦
 中3 —

『日本語の読み書き』 高(1~3) —
 『英語の読み書き』 高(1~3) Fuji
 『数と自然』 高(1~3) 下村昭彦
 『数の世界』 高(1~3) 福西亮馬
 『ラテン語』 一般 山下太郎

十一月のカレンダー

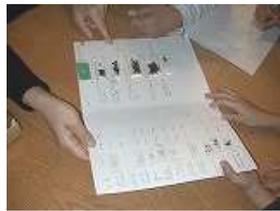
火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
<ul style="list-style-type: none"> ○ しぜん(小・低学年) ○ ことば(小・高学年) ○ かず(小・中級) ○ 中1英語の基本 ○ 英語の読み書き(高校) ○ 数の世界(高校) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ことば(小・低学年) ○ ことば(小・中学年) ○ ラテン語(一般) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ かず(小・初級) ○ かず(小・上級) ○ 中2英語の基本 ○ 中2数の基本 ○ 数と自然(高校) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ラテン語(一般)
20	30	40	50
90	100	110	120
160	170	180	190
230	240	250	260 山びこクラブ pm4:00~5:30 青春ライブ授業! pm7:00~8:30
300	○…クラスの開講日 休…休講日		

『声』

no.10

山下育子先生

—「しぜん」クラス



本日は雨降りでもあったので室内で過ごしました。御所に行った先週の火曜日を振り返り、見たもの、見つけたものを思いだし、旅行でクラスをお休みだったMちゃんたちにお話をしてあげました。

また、Mちゃんきょうだいは、同じ日に家族旅行で行った新潟での楽しかったキャンプの出来事、また海に入って大好きな“ヒスイ(石)さがし”をして親子でみどり色のヒスイだけではなく、珍しい“ラベンダーヒスイ”などを見つけたことや、前に行った「ひすい王国館」「ひすいの岩」のお話もしてくれました。温泉の話からは、「地面を何km掘ったら温泉が出てくるのかな？」また、「温泉の湯ノ花」についても話題が及びました。

みんなのお話はつぎつぎと尽きません。

濃いピンク色のハウセンカだけでなく、黄色のハウセンカも見つかったこと。そのハウセンカの黒い種の形を絵に描いて見ると、その形から連想→以前に調べたスズメ蛾の幼虫のフンの形、孵化後から蛹前までの体長の変化とフンの大きさの変化→飼育ケースの中にあるアゲハの幼虫の観察(目のように見えるものは？口はどこ？頭を何度もなでると肉角をだし匂いを出すのはなぜ?)→明日の台風23号の動き方やお天気記号の種類…などなど興味のあるテーマがたくさん飛び出しました。

あらかじめ用意していた『しぜんビデオ鑑賞』をする時間はすでになくなっていました。子どもたちは、「しぜん」に関するものでは何かしら自ら伝えたいことが溢れ出てくるようで、私が絵を描きながらお話をしていたはずが、いつの間にかペンの持ち手が代わり、子どもたち自らがペンを使ってみんなに図解入りの説明をしているといった頼もしく微笑ましいひとときとなりました。ふと時計に目をやると終了時間が過ぎていました。ビデオ鑑賞はまたの楽しみにしましょう！ (10月19日の記事)

ラテン語 Quiz

次の車名のうちで、ラテン語由来でないものはどれでしょう？

- | | |
|------------------|-------------|
| 1. カローラ (トヨタ) | 花の冠 |
| 2. カリーナ (トヨタ) | 船 |
| 3. セルシオ (トヨタ) | より高く |
| 4. オデッセイ (ホンダ) | 英雄の名 |
| 5. イプサム (トヨタ) | 自分自身 |
| 6. アウディ (ドイツ車) | 聞きなさい |
| 7. ボルボ (スウェーデン車) | 私は回る |
| 8. フーガ (日産) | 逃走 |
| 9. シビック (ホンダ) | 市民 |
| 10. レグナム (三菱) | 王国 |
| 11. オプティ (ダイハツ) | 最善の |
| 12. テラノ (日産) | 地球 (+ α 造語) |
| 13. プリウス (トヨタ) | 第一の |
| 14. レジアス (トヨタ) | 貴族の |

*メーカーが、たとえば英語やスペイン語のつもりで付けたものの中に、実はラテン語発であるものを探してみました。

答え 4

(オデュッセウス：ギリシア語が由来)

「山の学校」のホットな情報はウェブログから！
<http://www.kitashirakawa.jp/~taro/yama/>